

きるだけ経費を抑え、コンパクトに造りたい」(管理部)としている。

今年度から準備に入り、最短で19年11月の完成を計画。総事業費は5億円を超える見込み。

高橋組合長は総会で「(老朽化で)どうしてもやらなければならなくなった。現事務所を使ってきた先輩方に敬意を表し、建て替えを進めたい」と述べた。

新組合長に木幡専務 J A 鹿追町

2017年5月26日



木幡浩喜氏

【鹿追】J A 鹿追町(正組合員279人)は26日、同J Aで今年度の通常総会を開き、総会後の理事会で、任期満了に伴い退任した佐藤雅仁組合長に代わり、新組合長に専務理事の木幡浩喜氏(56)＝町中瓜幕西23線＝を選任した。任期は3年。

木幡氏は1961年鹿追町生まれ。土幌高校農業特別専攻科卒。50ヘクタールを経営する畑作農家。2008年理事、14年から専務理事。

木幡氏は「地域に根ざした魅力あるJ A事業を展開していく。外部委託やI C Tの導入をさらに進め、経営規模拡大や不足する労働力の対策に努めたい」と抱負を語る。

子牛の預託施設完成 農家負担軽減を期待 J A さらべつ

2017年9月6日

【更別】J A さらべつ(若園則明組合長)の哺育・育成牛預託施設(村更南南4線)が完成し、4日に竣工(しゅんこう)式が開かれた。施設は生後3日～1歳半の乳牛を預かることで、労働力不足への対策、家族経営が主体の酪農家の負担軽減を図る狙いがある。



J A さらべつが建設した哺育・育成牛預託施設



あいさつする若園組合長

預託施設は受け入れ前に衛生検査する導入牛舎、生後2カ月までの哺乳牛舎、離乳後4カ月後までの離乳牛舎、預託終了後のフリーストールに慣れさせる育成牛舎2棟などで構成する。

村営牧場のうち、2万4800平方メートルをJ Aが取得し

建設した。総事業費は7億4000万円。国の畜産クラスター関連事業で1億4000万円、村が3億円を補助した。

村の酪農戸数は1993年には110戸だったが、現在は39戸にまで減少。全てが家族経営で、少子高齢化による労働力不足が浮き彫りになり、体調不良で離農するケースもあった。

村やJ Aなどで構成する「村酪農・畜産クラスター協議会」は、子牛の育成を外部化することで酪農の振興を図る検討を進め、昨年9月に着工した。

村内では、コントラや酪農ヘルパー、TMRセンターなどを農家が主体となった法人を設立して運営。預託施設も、預託を希望する酪農家が設立した農事組合法人さらべつカーフセンター(安田豊代表理事、18戸)が担う。職員5人を雇用し、8日から受け入れを始める予定で準備を進める。

竣工式には関係者70人が出席。若園組合長は「酪農家減少や労働力の軽減に向けて有効利用してほしい」とあいさつした。

安田代表理事は「酪農家の急激な減少に歯止めをかけたい。乳量の確保や増加を図るため、育成を預託することで親の搾乳に作業を集中できれば」と期待している。